

東京ビエンナーレ 2020/2021 参加アーティストのご紹介とプレス内覧会のご案内



東京ビエンナーレ 2020/2021 の開催まであと 1 ヶ月となりました。
本プレスリリースでは参加アーティストのご紹介と開幕前日に予定しているプレス内覧会についてご案内します。

■参加アーティストピックアップ

① Praying for Tokyo ― 「わたしは生きた」 「ひかりのことづけ」 「Well Temperament 良律」
内藤 礼、宮永愛子、柳井信乃



Praying for Tokyo ― 「わたしは生きた」 内藤 礼
会場：空蓮房 会期：7 月 17 日(土)～9 月 5 日(日)

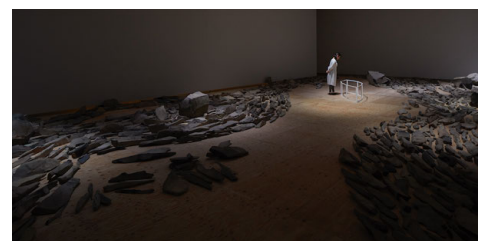
1945 年 3 月 10 日の東京大空襲は下町空襲とも呼ばれています(死者数は 10 万人を超える)。東京の現在から振り返る過去の街と人を思うとき、私たちは真の意味での鎮魂を祈念します。すなわち、惨劇を繰り返すことのない現在を確保し続けること。内藤礼は蔵前の寺院、長応院境内のギャラリー・空蓮房(くうれんぼう)に最小の彫刻―「ひと」―を配置し、墓地の慰霊碑には水を捧げる。また戦火の中、子供たちが避難した防空壕に「ひと」のインスタレーションを行い、なお祈り続けています。3 つの場所で生が応答し合い、今生きている私たちを触発します。

《無題》2009(2008-)、神奈川県立近代美術館鎌倉、Photo by 畠山直哉

Praying for Tokyo ― 「ひかりのことづけ」 宮永愛子
会場：湯島聖堂 大成殿西廂 会期：7 月 11 日(日)～7 月 29 日(木)

江戸幕府の官学所「湯島聖堂」、宮永愛子は図書館発祥の地といわれる湯島聖堂の大きな回廊にひかりの陰陽を感じとります。ガラスの素材に関わってきたキャリアの中で捉えた光の魅力。特別なマテリアル、古代の石サヌカイトは時折美しい音色まで聞かせてくれます。都心とは思えぬ緑の中の静けさに満ちる、饒舌な自然と街の音とともに、ひかりに導かれるインスタレーションです。

『漕法 II』2019 四世代で採取された 13 トンのサヌカイト、ミクストメディア Photo by 木奥恵三 ©MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery



Praying for Tokyo ―「Well Temperament 良律」柳井信乃

会場：湯島聖堂 会期：8月2日(月)～8月10日(火)

新進アーティストの柳井信乃は、湯島聖堂の空間を音の場と捉えます。制作スタジオがロンドンのオリンピック・スタジアムの近くにあり、その環境と人間の行動の観察から新作が生まれました。ウェルテンペラメントはバッハの「平均律ピアノ曲集」の英語名で記されている Well-Tempered から引用。今回のプロジェクトでは、ウェルテンペラメントにあたる「良律」と言う中国語を採用し、音楽家たちが求めた調和をもたす音律と、現在の社会の状況を重ね、「良律」とは何かを考えさせられるインスタレーションとなっています。

《Happy and Glorious》©Shino Yanai



② トナリプロジェクト「トナリバー」 西原 珉

会場：アーツ千代田 3331 会期：7月26日(土)～9月5日(日)



Photo by YUKA IKENOYA (YUKAI)

キュレーションやアート・マネージメントの経験を経て、ロサンゼルスでメンタルヘルス・セラピスト兼ソーシャルワーカーとして活動してきた西原 珉。東京ビエンナーレでは、アートセラピーやソーシャルワークからアプローチするアートプロジェクトとして「トナリバー」を開店します。「トナリバー」は何かしてもしなくても、話しても話さなくても、聞いてもらってももらわなくても良いバー(場)。来て下さった方にはメニューをお出ししますので、注文して下さい。メニューには、箱庭インスタレーション、禅タングル、自分の問題を聞いてもらうなど癒やしりのものから、ドローイングなど何かをつくるもの、お酒を止めたい人向けの「君と一杯水を飲めば、もう今日は飲まないでいられる」、ただそこにいたい人には「放っておいて下さい」というメニューもありますので、安心してご来場を。その他、ヤングケアラーなど、当事者どうしが集まってサポートできるグループを開く予定です(こちらの参加は当事者のみ)。

③ 優美堂再生プロジェクト ニクイホドヤサシイ 中村政人

会場：優美堂 会期：7月10日(土)～9月5日(日)

戦後、神田の焼け野原に富士山の看板を掲げ、額縁屋を開業した「優美堂」。現在この地域は、大波が押し寄せるように再開発が進み、個人商店は存続しえなく、法人の街・企業の経済成長のための街と化しています。東京ビエンナーレの共同ディレクターでもありアーティストでもある中村は、閉店して廃墟化が進んでいた優美堂の建築改修、事業計画と運営、展覧会企画制作等で毎週末ボランティアの皆さんや市民の皆さんと共に創り出し、優美堂自体を作品化し現在進行形で出展します。プロジェクト名である「ニクイホドヤサシイ」は優美堂の電話番号から。



左：優美堂から運び出した約3000点以上の額、2020年

右：優美堂の大掃除に集まった30名以上のボランティア、2020年

④ 陸前高田 2011-2020 畠山直哉

会場：台東区立 鶯谷第5自転車駐車場 会期：7月10日(土)～9月5日(日)

岩手県の陸前高田に生まれ育った畠山は、石灰石鉱山を撮影したシリーズ「LIMEWORKS」、石灰石鉱山の発破の瞬間を収めた「BLAST」シリーズ等、一貫して都市の問題をテーマに創作活動をし、世界中から高い評価を得ています。2011年、畠山自身の家族が東日本大震災に被災したことを境に、地元の陸前高田を撮影し始めます。震災の爪痕から現在の復興の途に至るまで、約9年間写真を撮影し続けてきました。東京ビエンナーレでは、その膨大な写真群のコンタクトプリントを展示します。フィルムをそのまま印画紙に密着させて原寸プリントしたコンタクトプリントは、畠山が見てシャッターを切ったカットがすべてプリントされています。セレクトされていない状態の写真群からは、何が見えるのでしょうか。《畠山直哉 写真展 まっぴたつの風景》展示より、2016、せんだいメディアテーク(仙台)、Photo by 畠山直哉





⑤ 家族との晩ご飯へ送られる絵画 東京編 アリーナ・ブリュミス+ジェフ・ブリュミス
会場：アーツ千代田 3331 104 号室(3331 ギャラリー)
会期：7月10日(土)～9月5日(日)

このプロジェクトは、2008年にイスラエルのバト・ヤムで始まり、12年にはアメリカのプロシックス、翌年には北京やイタリアのレッツェでも実施されました。今回東京では以下のメッセージと共に地域住民に参加を呼びかけ、作家が社会と結びついていきます。

「夫婦でもある2人組のアーティストが、家族の晩ご飯への招待と引き換えに絵画をプレゼントします。詳細はメールか電話でお問い合わせください。」

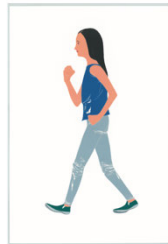
上記の呼びかけを通じて集まった各家庭ではアーティストからプレゼントされた絵画とカメラマンによって家族写真が撮影され、その写真は3331にて展示されます。

《A Painting For A Family Dinner》2013年9月16日、北京(中国) Jeff Blumiss, Shao Yingzhi, Du Shuhua, Dai Mingyang, Shao Jun, Dai Jing, Alina Blumiss Photo by Du Yang(北京)

⑥ 絵と目 O JUN

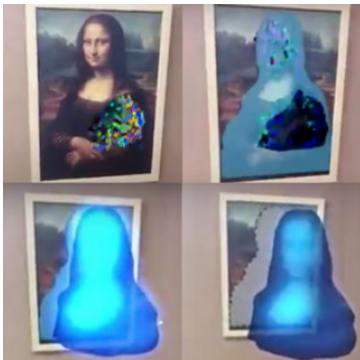
会場：有楽町 micro FOOD & IDEA MARKET

会期：7月10日(土)～9月5日(日)



本プロジェクトでは、3点の絵画で構成される『絵と目』を一面の壁に拡大して集合させる場合と、3点をフレーミングし場所を変えて配置させる場合と、2種に分けて展示を行います。前者は有楽町の建物壁面における展示に、後者は額装した原画の展示に相当します。鑑賞を通じて、作品の見え方や見間違い、見過ごしを改めて感じるができるかもしれません。街の中における離合集散の形態、視覚や記憶を体験すると同時に、「オリジナル」とは何かという問いが浮かび上がることでしょう。

左《セスジズメ》2021 中《+》2021 右《ナックル》2021



⑦ 都市と経験のスケール AR三兄弟

会期：7月10日(土)～9月5日(日) 会場：会場各所 *詳細は会期中にウェブサイトをご覧ください。

AR三兄弟が、都市をテーマにした新作を開発。身体に経験を宿した人間の動きとフォルムをデジタル化し、会場の各所に配置。持ち主とは異なる動きと身体を交錯させることで、都市と経験のスケールを図るし、測る。さらに、今回東京ビエンナーレに参加する5組のアーティスト(椿昇、山縣良和、イ・ブル、千葉学、宇川直宏)とも共同で作品開発もします。コロナ禍における国際芸術祭の可能性を拡張します。

《モナリザの搬出》2018

ソフトバンクとの共同記者発表のご案内

東京ビエンナーレとソフトバンクが、日本を代表する開発者ユニットである「AR三兄弟」とARアートを共同で開発し、ニューノーマル時代のまちをより楽しくする新しい文化体験を提供します。これに先立ち、共同記者発表を開催いたします。ご興味のある方には別途ご案内いたしますのでpr@tokyobiennale.jpにご連絡ください。

6月29日(火)14:00-16:00

会場：有楽町『SAAI』 Wonder Working Community(東京都千代田区有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 10 階)

登壇者：大塚哲治(ソフトバンク サービス企画本部 コンテンツ推進統括部 プロダクト開発部)

中村政人(東京ビエンナーレ 総合ディレクター)、宮本武典(東京ビエンナーレプログラムディレクター)、

AR三兄弟(東京ビエンナーレ参加アーティスト)

総合進行：穴戸遊美(東京ビエンナーレ アドミニストレーター)

【Save the date】プレス内覧会と開幕記者発表のお知らせ

一般開幕前日7月9日(金)に以下の通り開幕記者発表とプレス内覧会を行います。詳細は改めてご連絡させていただきます。

東京ビエンナーレ 2020/2021 オンライン開幕記者発表

7月9日(金)10:00-11:00 (予定)

プレス内覧会

7月9日(金)11:00-18:00 (予定)

上記時間はお自由に各自にて観覧いただけます。各会場でアーティストが滞在しています。

おすすめルートも合わせて後日お知らせいたします。

東京ビエンナーレ2020/2021開催概要

名称：東京ビエンナーレ2020/2021

テーマ：見なれぬ景色へ ―純粋×切実×逸脱―

会期：2021年7月10日(土)～9月5日(日) ※会期は変更になる場合があります。

主催：一般社団法人東京ビエンナーレ

後援：千代田区、中央区、文京区、台東区、一般社団法人千代田区観光協会、一般社団法人中央区観光協会、一般社団法人文京区観光協会、アイスランド大使館、米国大使館、イスラエル大使館、イタリア大使館、シンガポール共和国大使館、台湾文化センター、ニュージーランド大使館、ブラジル大使館

特別助成：文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会 令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト、公益財団法人石橋財団

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、アジア・カルチュラル・カウンスル、公益財団法人吉野石膏美術振興財団、公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド

特別協賛：三菱地所株式会社、株式会社大丸松坂屋百貨店、ソフトバンク株式会社

協賛：大丸有SDGs ACT5実行委員会、株式会社東京ドーム、日本マクドナルド株式会社、日本ペイント株式会社、株式会社ビルテック

特別協力：3331 Arts Chiyoda、一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN、株式会社ムラヤマ、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

協力：株式会社良品計画、特定非営利活動法人 大丸有エリアマネジメント協会、YKK 株式会社

総合ディレクター：中村政人、小池一子

会場：東京都心北東エリア(千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリア)

チケット料金： パスポート 前売り(4/26-6/30)一般¥2,000/学生¥1,500

本券(7/1-9/5) 一般¥2,500/学生¥1,900

個別鑑賞券 一般 ¥500/学生¥350

参加アーティスト(全64組)

アーツプロジェクト参加アーティスト(50音順)

池田晶紀、伊藤ガビン、井田大介、宇川直宏、大木裕之、川村亘平斎+宮本武典、グランドレベル(田中元子+大西正紀)、栗原良彰、佐藤直樹、竹内昌義+中田理恵、高山 明、立花文穂、椿 昇、津村耕佑、遠山正道、内藤 礼、中村政人、並河 進、西尾美也、西原 珉、西村雄輔、長谷川逸子、畠山直哉、林 加奈子、藤 浩志、宮永愛子、村山修二郎、柳井信乃、山縣良和、山崎亮、リー智子、AR三兄弟、O JUN、commandN、KENTARO!! a.k.a. Dayonash

公募プロジェクト「ソーシャルダイブ」参加アーティスト(50音順)

【国内】 鷲谷ベルエポック、佐藤史治+原口寛子、鈴木真梧、スタジオバッテリー、セカイ+一條/村上/アキナイガーデン、高畑早苗& Creative Kids Club 人形町、2.5 architects(森藤文華+葛沁芸)、東京アルプス、久村 卓、BKY+銭湯山車巡行部、藤原佳恵、太湯雅晴、Hogalee、MMIX Lab、門馬美喜、野宮、山中カメラ

【海外】 フィオナ・アムンセン(ニュージーランド)、ダフナ・タルモン(イスラエル)、鄭 亭亭(チェン・ティンティン/台湾)、陳 飛豪(チェン・フェイハオ/台湾)、アリーナ&ジェフ・ブリュミス(アメリカ)

*以下のアーティストは来日不可によりプロジェクト中止になりましたが作家紹介のパネル展示などを実施予定

ホズィーリス・ガヒード(ドイツ)、ペドロ・カルネイロ・シルヴァ(ブラジル)&アーダラン・アラム(ドイツ)、クレイ・チェン(シンガポール)、ケレム・オザン・パイラクター&ブスラ・トゥンチ(トルコ)、ヒルダー・エリザ・ヨンシュドッティル(アイスランド)、マイケル・ホンブrow(ニュージーランド)、マルコ・パロッティ(イタリア)

ソーシャルプロジェクト

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| ・災害対応向上プロジェクト | ディレクター：オンデザイン |
| ・批評とメディアの実践のプロジェクト「RELATIONS」 | ディレクター：毛利嘉孝 |
| ・デザインプロジェクト | ディレクター：佐藤直樹 |
| ・アトライティングスクール | ディレクター：福住 廉 |
| ・学環創出プロジェクト | ディレクター：伊藤達矢 |
| ・学校活用プロジェクト | |

連携プロジェクト：Life in Art Exhibition(株式会社良品計画)

※当事業は新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じ、各方面からの情報収集を行いながら慎重な判断の下で実施いたします。

※2021年6月現在の状況をもとに情報を掲載しています。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の取り組みについてはプレスページをご覧ください。

【お問い合わせ先】 一般社団法人 東京ビエンナーレ

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14 アーツ千代田 3331 内 TEL:03-5816-3220 FAX:03-5816-3221

E-Mail: pr@tokyobiennale.jp <担当:市川> <https://tb2020.jp>